



金上野の ②



前回「下に行く」としまし
たが「上」の誤りでした。
訂正してお詫びいたします。
今回は「中と下」。

前回「現在の金上野は町に
近い方が人口も多く賑わって
いるが、中世までは、五在所山
の麓辺りの方が人口は多かつ
たようである。隣接する現在

の古市町に市が立つようになって少
しずつ人口比が変わっていったので
はないかと考えられる」と書いた。こ
の古市町に隣接する一帯における昭
和の後半までの賑わいぶりを聞くと
驚く。

近年整備された国道の東側にある
住宅地には、終戦後しばらくまでは
競馬場があった。もともとこれは、今
のような整備の行き届いたものでは
なく、凸凹だらけの「草競馬」であつ
たが、当時の人々を楽しませるには
十分なもので、毎回大いに盛り上
がったという。時代は進み、人々の娯
楽が増えていくと草競馬は少しずつ
下火となる。昭和30年代後半には高
度成長期に入り車社会の到来を迎え
ると、この草競馬場は自動車学校に
姿を変えた。そして次に迎えた人口
減少時代・少子高齢化社会への変遷
に伴い、自動車学校は現在の住宅地
へと変わっていったのである。

さて、地区の西側にある里山エリ



昔は行商街道だったという
天竺野里山自然公園の散策道

アに「天竺野里山自然公園」がある。

数年前に有志によって作られた自然
公園で、一時は町内外からたくさん
の子どもたちが野外活動に訪れたの
だという。今はその当時の面影を残
しつつひっそりとしているが、まだ
まだ魅力あふれる公園として蘇る可
能性を秘めている。この公園のメイ
ンの散策道は、実は江戸期から続く
行商街道であつた。ちりめんじゃこ
などの干物を持った興津や佐賀（現
黒潮町）からの行商人が、この道を
通って山向こうの西原地区へ抜け、
農民たちが生産する米などの物々
交換を盛んに行なっていたらしい。
また、国道56号を挟んでこの公園と
対称の位置（東側）に小高い山がある。
戦国時代、この山の頂には「金上野
城」という山城があつた。城主は不明
なのだが、この城は、城主が居眠りを
している時に襲われてあえなく落城
したので、後に「眠ヶ城」と名付けら
れたという話が残っている。

町のうごき

(3月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,896	-68	男 5	21	46	98
女	8,726	-73	女 3	15	33	94
計	16,622	-141	計 8	36	79	192
世帯数	8,376	-24	(3月中の届出)			
窪川地域	11,772人		大正地域	2,316人	十和地域	2,534人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	4月9日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.243
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	1.20
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）

資料：四万十高校自然環境部